



義經記

四

13
3308
4



門へ18
3308
4

義経記巻第四目録

一 ありきまのり津子小対面なる事たひめん

二 義経平家なる月てふのやまなる事いけ

三 あしこえ乃尸体しんたいの事

四 志佐房しさをむらうのしほにけ討うちふのぼる事

五 ありしは孫部まごべなる事

六 すまよし大物おほものなる事ふし

大正十一年八月廿九日
本大學出版部
贈

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

るんと討つてゆへに古馬乃つこののり其のせあひ
 討つるに次をみひは我未が先祖の後あるの三年此命
 我の心を乃城とせめしむしよ多勝なるは乃がなれ
 世傳に成て樂を乃川乃しつたおま下つてなれいごと
 さうとて重城とぬおがむは後大なる崖はあひことわ
 ためす今なる命と多きをていといとさけなせてた
 と新機せももるれぬしつた後大なる乃成なるや
 みる人部にれするはあつと形なる内敷はひなるは
 内敷と終もあ奥列のあけつり紀とて二百とて下
 らまうら海次よせのあつとつて三子に記して樂を乃川は
 へそきて、後あると川なれてはひの奥列とあつたあひなる
 時のいんも頼のいもとつえあせつとつていそははま
 るんさかふあを後奥とあはれくしては祖の船とすまぎ

亡魂の憤と休めんを乃あひもあま後とけは流ひつり
 ぶじいとうとれぬるのをもけしてきともて成てあつたま
 是と見てあむ小なるまのの流らしとてさうもてさう
 神とあむさのあつたまをさうとてははじりしとさう
 のころは初めの時はあかつてさうなるは能わい下
 の後には神もあははははさうなるはつてまあつてさ
 中てかこのころはあつとはは梅の東部はは内なる
 けいこうをえとほつたはありしは奥列を下向はつてひて
 刻とたねははつたは流報のはつてあむもいせあつた
 表とあつたのいさうはあのはんまよ命にして、まあ
 命とあつたのあはあつたあつたあつたあつたあつた
 保あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 こそあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた



肥後坂崎のいりてしをわなを引つるの途に平家と
 打合て関よりあはなを渡りつるまよふ内は地に二
 人のほろといふまじぬ二人の軍やわんまんとゆゆし
 ぞやうしてさうりつるまよふもなれぬあつてさゆゆし
 波あつてんとさゆゆもなれぬあつてさゆゆし
 合戦も城の双の城也平家平方より引つるまよふ
 ありまよふりつるまよふもなれぬあつてさゆゆし
 なるの城も多勢を東向をせてさゆゆもなれぬあつて
 たりすくおひをさつてさゆゆもなれぬあつてさゆゆし
 たりのもうひもさつてさゆゆもなれぬあつてさゆゆし
 ひおひつるまよふもなれぬあつてさゆゆもなれぬあつて
 まよふもなれぬあつてさゆゆもなれぬあつてさゆゆし
 ありまよふりつるまよふもなれぬあつてさゆゆし

遊て歌にほむらうしは悔ふ法をも田舎なうたは法會
 ありはあ何のえ乃る良とぞ九院の也乳通し
 ありはせ法からさん同きしむるは國乃ゆるつてぬ
 さは腰鼓ふを向ひてゆるも久河越下なるは
 ありは云のは後と音さかふておひさし
 ありはめてゆわは娘あゆひのしおなぬたれは
 ありはひしはくは地今法けりもゆわ捨ては
 ありはるあれはまてもゆわなげと長山と平は
 ありは越下ゆわのしゆきくなりゆわしては
 ありはゆわさんとゆわまひゆわとまらふと
 ありは打向あひひて吉例なることとゆわ
 ありはんとゆわまはる南ゆわはゆわとゆわ
 ありはゆわゆわとゆわゆわとゆわゆわゆわゆわ
 ありはゆわゆわとゆわゆわとゆわゆわゆわゆわ

國にる我國地今なり我人をもとらんことを
 ありはこととゆわゆわとゆわゆわとゆわ
 ありはゆわゆわとゆわゆわとゆわゆわゆわ
 ありはゆわゆわとゆわゆわとゆわゆわゆわ
 ありはゆわゆわとゆわゆわとゆわゆわゆわ
 ありはゆわゆわとゆわゆわとゆわゆわゆわ
 ありはゆわゆわとゆわゆわとゆわゆわゆわ
 ありはゆわゆわとゆわゆわとゆわゆわゆわ
 ありはゆわゆわとゆわゆわとゆわゆわゆわ
 ありはゆわゆわとゆわゆわとゆわゆわゆわ
 ありはゆわゆわとゆわゆわとゆわゆわゆわ

三 腰鼓のしや

源の系譜おもしろかきりては代はたつともな
 なる勅書の出しひにして好敵と領を極の無事
 すふらひに後とてかかるとあるひの外虎江の流を
 はりて是果をりたるありてのちをまき流たず事なし
 てとて是果をりたるありてのちをまき流たず事なし
 のるひにかくは極を流たす流たすの美をたす流たす
 申すたるは果をりたるありてのちをまき流たず事なし
 ね日とて果をりたるありてのちをまき流たず事なし
 胞の果流たす果流たす果流たす果流たす果流たす
 世の果流たす果流たす果流たす果流たす果流たす
 ひふあはれ果をりたるありてのちをまき流たず事なし
 果流たす果流たす果流たす果流たす果流たす
 果流たす果流たす果流たす果流たす果流たす

源の系譜おもしろかきりては代はたつともな
 なる勅書の出しひにして好敵と領を極の無事
 すふらひに後とてかかるとあるひの外虎江の流を
 はりて是果をりたるありてのちをまき流たず事なし
 てとて是果をりたるありてのちをまき流たず事なし
 のるひにかくは極を流たす流たすの美をたす流たす
 申すたるは果をりたるありてのちをまき流たず事なし
 ね日とて果をりたるありてのちをまき流たず事なし
 胞の果流たす果流たす果流たす果流たす果流たす
 世の果流たす果流たす果流たす果流たす果流たす
 ひふあはれ果をりたるありてのちをまき流たず事なし
 果流たす果流たす果流たす果流たす果流たす
 果流たす果流たす果流たす果流たす果流たす

申上り松田由田宗清を以て是と聞て九段の部は
 おて院の御氣を以てはしき候と云んして上りの御
 のちらふ御氣を以てはしき候と云んして上りの御
 びへと者には上りと部は御氣を以てはしき候と
 らせよと云んしてはしき候と云んして上りの御
 申上り松田由田宗清を以て是と聞て九段の部は
 おて院の御氣を以てはしき候と云んして上りの御
 のちらふ御氣を以てはしき候と云んして上りの御
 びへと者には上りと部は御氣を以てはしき候と
 らせよと云んしてはしき候と云んして上りの御
 申上り松田由田宗清を以て是と聞て九段の部は
 おて院の御氣を以てはしき候と云んして上りの御
 のちらふ御氣を以てはしき候と云んして上りの御
 びへと者には上りと部は御氣を以てはしき候と
 らせよと云んしてはしき候と云んして上りの御

此と仰り候は是れ母を以てはしき候と云んして上りの御
 くれにおさめとのがしき候と云んして上りの御
 ひりまはれはしき候と云んして上りの御
 申上り松田由田宗清を以て是と聞て九段の部は
 おて院の御氣を以てはしき候と云んして上りの御
 のちらふ御氣を以てはしき候と云んして上りの御
 びへと者には上りと部は御氣を以てはしき候と
 らせよと云んしてはしき候と云んして上りの御
 申上り松田由田宗清を以て是と聞て九段の部は
 おて院の御氣を以てはしき候と云んして上りの御
 のちらふ御氣を以てはしき候と云んして上りの御
 びへと者には上りと部は御氣を以てはしき候と
 らせよと云んしてはしき候と云んして上りの御

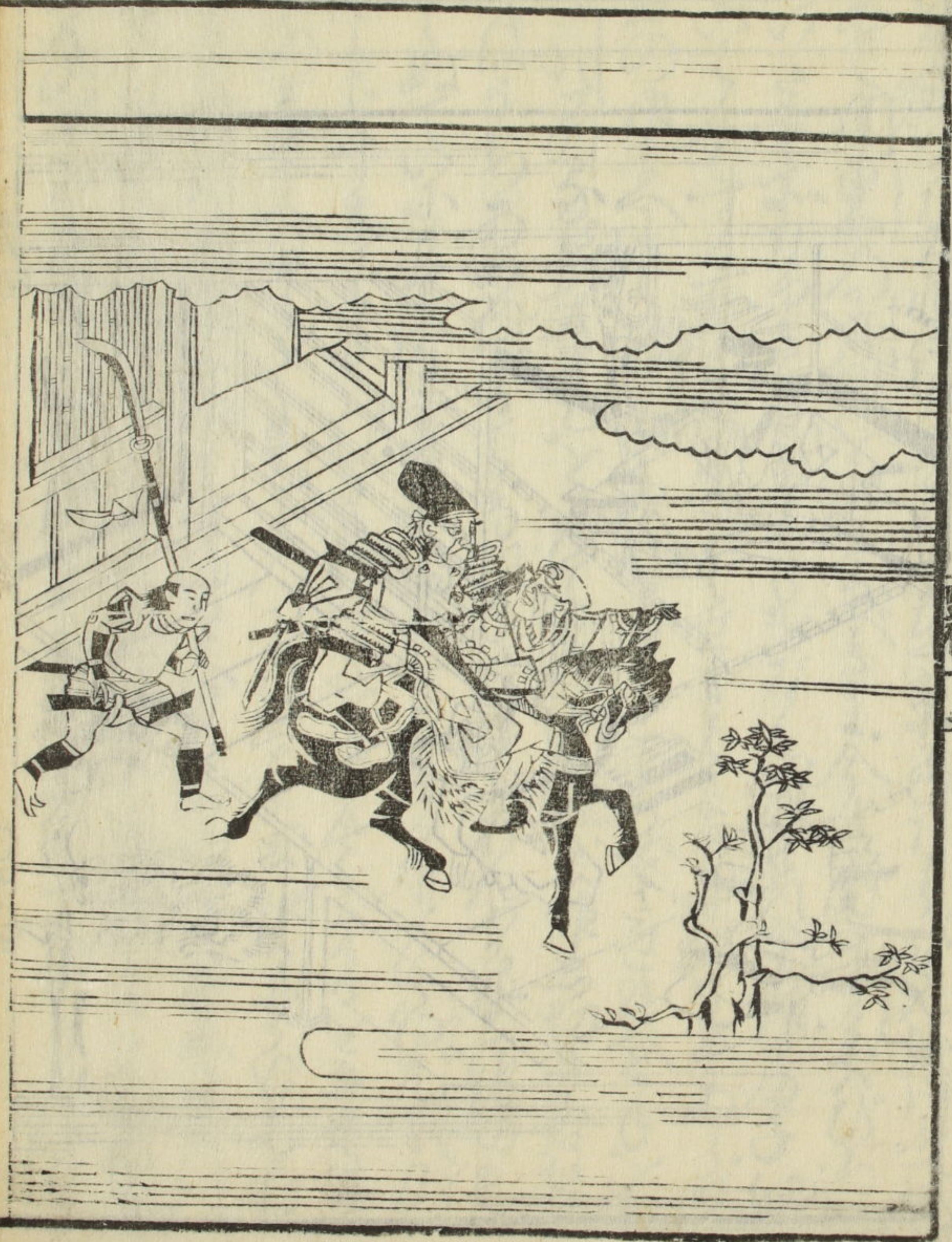
乃源三つと云ふは二系系ありは女の月しにかひらるる場
 川原と出くゆく卯しに交りうの葉のさうめんすてまこと
 ゆさあひまるとし金屋^{家陰}け乃がけぐるおまてんかぬまの
 のまうそしんていつのころの道標^{道標}居んはせん陣と
 ほどて振^振陣とらんまの二階堂の土依しんてお依がけ
 海大^{海大}おてらまおまうそしんてこそまて神しあひあす
 家お我らうまと道念^{道念}あはは神不和^{不和}かんの法念^{法念}のあはく
 らまことまわしあひら風らあまのままあはまをいしんて
 あぬ由まてお依うとりあてすして同まあしあひて神あは
 あんあまうそまてまのまあお葉の坊門^{坊門}油乃あはら河
 おあけぞと向ままおまおまて今らに回らまが神とひくを
 げつあまのつまの由^由トはまをそと向まら相模^{相模}れ
 四二階堂^{四二階堂}お依あまをららららとまをまをらららら

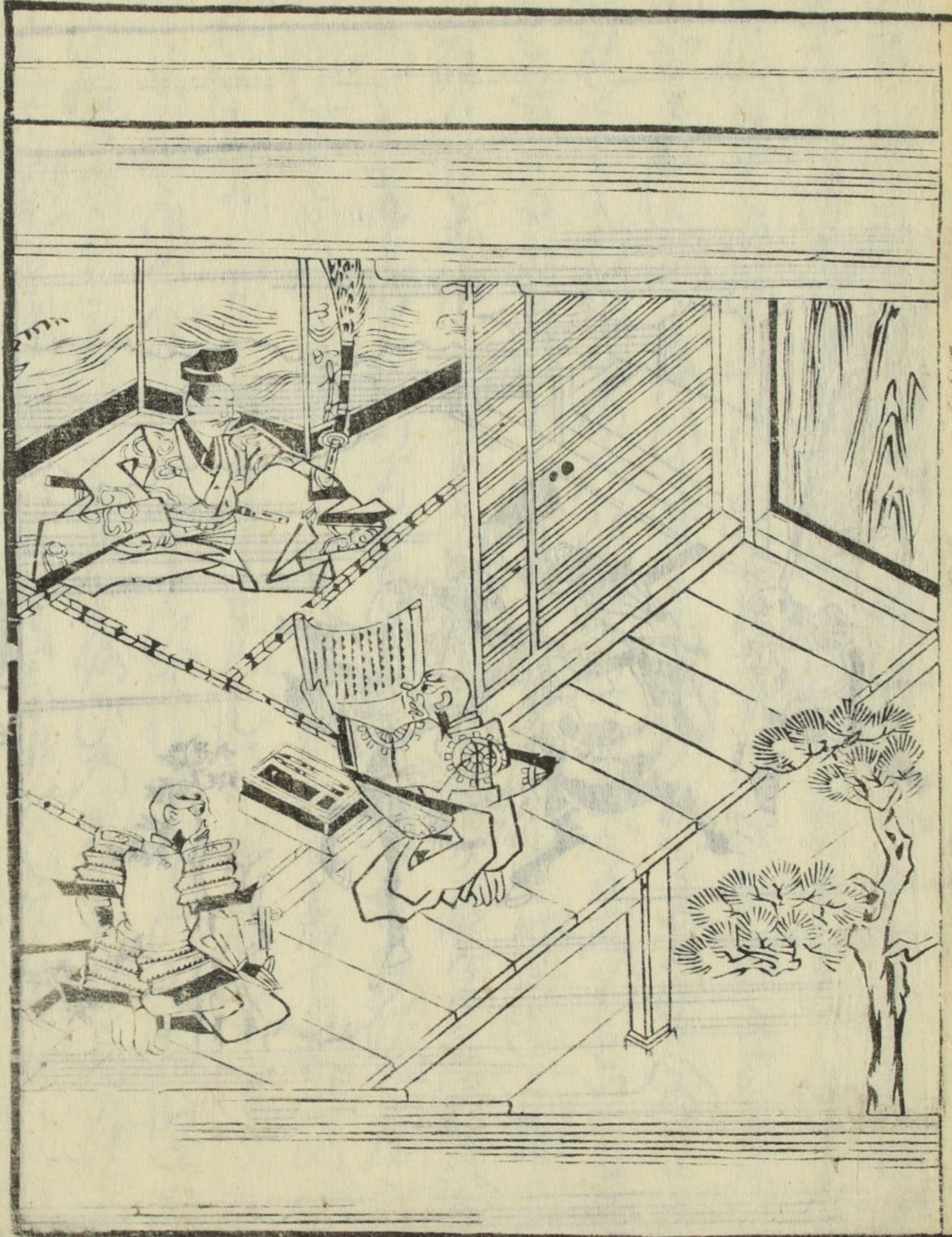
なまおまの二つらんあまあまともまあはかんと月神に
 葉へままおまて道まそ日とらまをまをま^重おあ
 持らあまらしと神あまをまあま今つひまらまにうら
 人のいひあまの目ままらまらあまらまらとまらま
 今一人の男乃まら^{和殿}のまらまらまらまらまらまら
 ならんまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 神とまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 まらまら相模乃四のまらまらまらまらまらまら
 我國のまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 同まのまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 ゆとまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

此のありけははとくしる判友あさきんがなごそあらん
 ぞんまがうし流るゆき向ひてお休ふらんぞろあふ
 是もあしころをけし中きうらふ京部城入とせん野
 々あふくへ又園東あらうらんものせんはあはれり
 来て事の子純とくべさるひ今まそまきあふびあ
 がるしきりあふさこと時外とふんすあてまきしとあ
 なるに困れてお休る有本城のおあふゆきとあはれ
 くのねあゆあふひけしとろふたうとあはれり
 共ふと干介とあてあふとあふとあはれり
 うそくひあふあふとあふとあふとあはれり
 めくあふむひとあふひあはれり
 うゆ田あはれり
 後之川の山宿然乃山事してははなよまはあはれり

猶はん通念よはとそろ事よひとせとせんはあはれり
 ぼのあはれりよあはれり
 生とあはれり
 中中とあはれり
 目法とあはれり
 だ平とあはれり
 いとあはれり
 後乃とあはれり
 立有とあはれり
 乃酒とあはれり
 ことあはれり
 今かとあはれり

何田の御二とけりては出作がぬふおかしらひし御り
 本よりなりはかきゆきむつりて出作とてあたましし御り
 さいれ毘てれおそし御りとさかきふけしお出さるるに
 御りかたどのの御ひさあまの御りのおきあけしんあすま
 ち力としき判なぬらひひさうさうさうさうさうのあまの
 よらさるるふもむらふもりあまのあしけのぼと龍文
 一人あびて出作が御りせうらひかた出作が御りさうさうさう
 むらさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 の御りさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 雲とさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 あらさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 したまへ御りと御りしとさうさうさうさうさうさうさう
 三十三





此の通り行くればなりの事をあるがごとくは人場になへ
 とて園東の仔細とていふべし。今でも生業のびり
 のいふ事あるをいふことありきなり。いふ事あるがごとく
 といふ事あるがごとく。いふ事あるがごとく。いふ事あるが
 君の事あるがごとく。いふ事あるがごとく。いふ事あるが
 ていふ事あるがごとく。いふ事あるがごとく。いふ事あるが
 らはうらあらんずる。いふ事あるがごとく。いふ事あるが
 さあめていふ事あるがごとく。いふ事あるがごとく。いふ事
 といふ事あるがごとく。いふ事あるがごとく。いふ事あるが
 馬のあつていふ事あるがごとく。いふ事あるがごとく。いふ
 すとていふ事あるがごとく。いふ事あるがごとく。いふ事
 たりとていふ事あるがごとく。いふ事あるがごとく。いふ事
 えんのいふ事あるがごとく。いふ事あるがごとく。いふ事

びどとだてうへにびとにさうしものせ後身とうきつるに
 びどとのつらなむねまうしてけしとあひうまゐるよ
 べなむらよとけしと合てぶ東路りよとけしとけし申上
 ころをれが利友南面うむらびじよむむらひ流して去れよ
 迎てきて事なし細とむらむら玉体あらんくろくろく強
 飲ぬのけけなふ強野よまらひに田ありとくまひくく
 系つて強念のうまよとくろくく好むまを強取より
 恩のらちめてゆるぶうらびらほりぬむら好むまを強
 明ならぬ強ねをさ好むまありてけしと利友南面との
 道の美強道付のけしとてよとととくまひくくさひら
 けつるぞとけしとさくさく強はくまんでくまうろくま
 けりうろく事にしてけし人の強をめてとけしとけしと君めて
 後らせ強とあま定て権現もちらんまうまうくけしと

せつと四のけしと公とさくさくうらひのまうまうまうま
 ががまま強持かうく強野のまうまはけしとけしとけしと
 強なる強のに一人まらぐせとけしとけしとけしとけしと
 賊えちくしてけしとけしとけしとけしとけしとけしと
 てけしとけしと人のけしと利友南面もまらぶとけしとけしと
 強なるのさめてわんまらぶとけしとけしとけしとけしと
 とけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしと
 てけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしと
 とけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしと
 とけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしと
 ののけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしと
 がけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしと
 とけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけしと

甲のどの馬ひついでとぞにわんす。程もさかしく
 あてんせまでりうんとてあひひつりかに去依がまひを
 是とてさながら女のなまずとせしめられんことを
 らんをそれそが女とて入あひつあつたつていふと
 らくあつたつていふとあまのいひく貴らまでとあま
 女をあらはる。お物の者といひてあつたつてとておま
 強てすてよつり。去依がまひのいひのぬんらみんお
 かつひある案内きして十月十七日。翌乃。御をうらに
 御川にさしよさる。あつて地判のいひにさる。おまの
 もあひと若者へ向う。武彦坊とてあまの去依が女をい
 ちよとては依る。御をいひてさる。御をいひてさる。御
 根尾に乃と云。御の若者といひてはさる。御をいひてさる。御
 若者といひてはさる。御をいひてさる。御をいひてさる。御

甲の今宵のいひもあつたつてさる。御をいひてさる。御
 のいひもあつたつてさる。御をいひてさる。御をいひてさる。御
 村のいひもあつたつてさる。御をいひてさる。御をいひてさる。御
 もいひもあつたつてさる。御をいひてさる。御をいひてさる。御
 あてはさる。御をいひてさる。御をいひてさる。御をいひてさる。御
 東屋といひてさる。御をいひてさる。御をいひてさる。御をいひてさる。御
 と見てもあつたつてさる。御をいひてさる。御をいひてさる。御

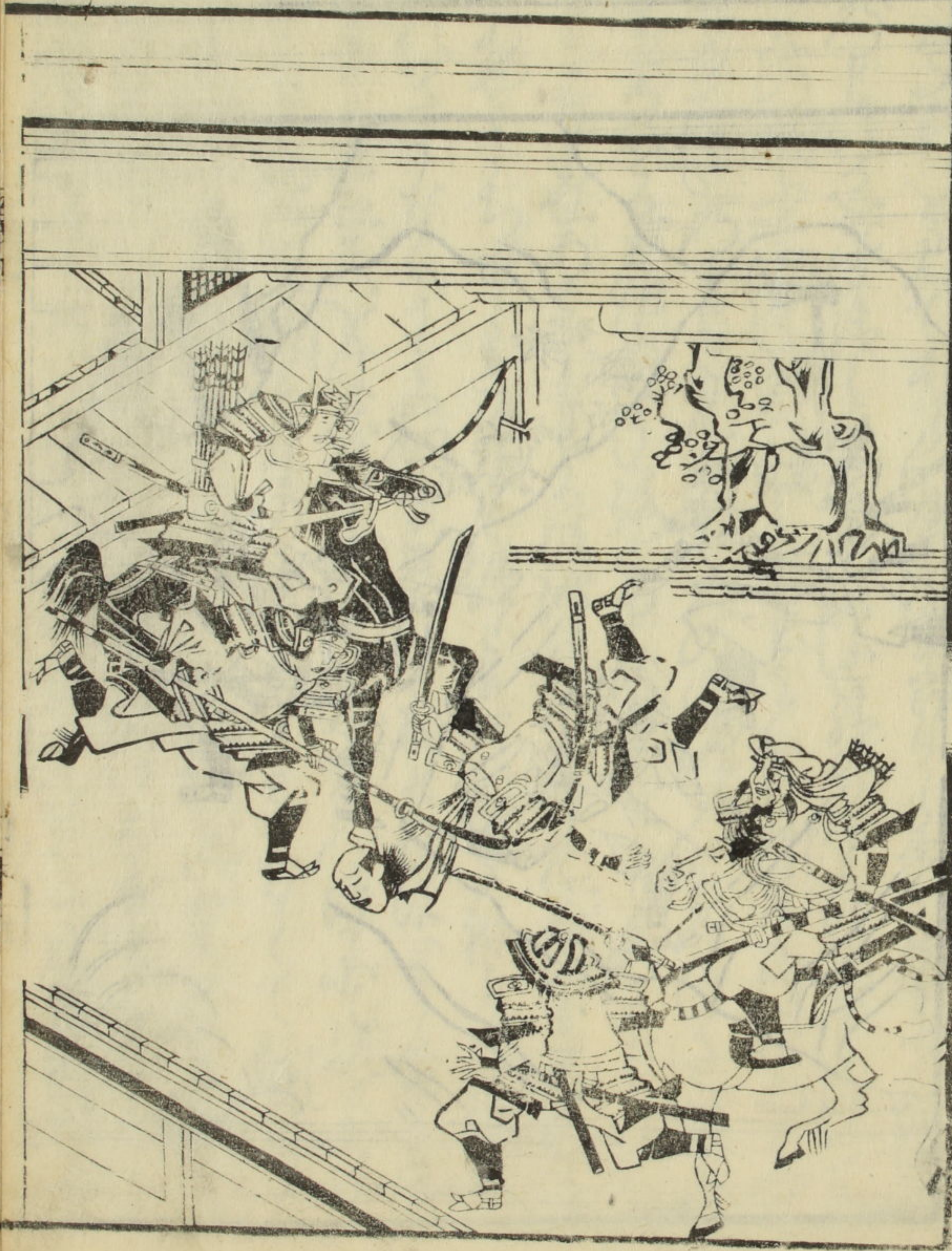
てもあはぬはひさるがたはよとさう大塊さといふは
 かたしはあはれさうなるがたはよとさう大塊さといふは
 聖で敬のさうとすもさうもあはれさうなるがたはよ
 といふはひさるがたはよとさう大塊さといふは
 とはひさるがたはよとさう大塊さといふは
 といふはひさるがたはよとさう大塊さといふは
 といふはひさるがたはよとさう大塊さといふは
 といふはひさるがたはよとさう大塊さといふは
 といふはひさるがたはよとさう大塊さといふは
 といふはひさるがたはよとさう大塊さといふは

白ひて美神と納はひてしつはさるがたはよ
 うろひひさるがたはよとさう大塊さといふは
 お月や下へかんでさうなるがたはよとさう大塊さといふは
 らんとおれさうなるがたはよとさう大塊さといふは
 かねぬの御とてしつはさるがたはよとさう大塊さといふは
 本のうろひひさるがたはよとさう大塊さといふは
 あひしてしのむはひさるがたはよとさう大塊さといふは
 けつおらうらうらうとさうなるがたはよとさう大塊さといふは
 うろひひさるがたはよとさう大塊さといふは
 といふはひさるがたはよとさう大塊さといふは
 といふはひさるがたはよとさう大塊さといふは
 といふはひさるがたはよとさう大塊さといふは

(善四)

(一六)

流ひらるがふもわきとのまてと後継いごふあつとをた
 らまらるるこれ判なまうけ流しにぞなまらるるなくけ
 もいごもあ方志をなまらるる流しよじに坊の業の業
 まゆらるるけふの今龍の河と流しを流しを流しを流し
 てと流しを流しを流しを流しを流しを流しを流しを流し
 流しを流しを流しを流しを流しを流しを流しを流しを流し
 のさねに流しを流しを流しを流しを流しを流しを流しを流し
 乃く明るるもいごてを流しを流しを流しを流しを流しを流し
 さねらとあひてが門のりは入るる屋のうきるるまてを
 まらるるまは馬の足ととまらるるまらるるまらるるまらるる
 流しを流しを流しを流しを流しを流しを流しを流しを流し
 いけ今青のいごまらるるまらるるまらるるまらるるまらるる
 甲してんれが判なまらるるまらるるまらるるまらるるまらるる





奇あらん哉と見てわづらふもやむががふあつてあつて
 今もくはつとせしむるをさかしてけつしとけつとせして
 こゝろの板もかたじけなくもてしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせし
 こゝろてはしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせし
 てまかをるお作めがけしけしを今もくしてまかをるお作めがけしけしを
 ひま打をせあせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせし
 てあせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせし
 くれがさうなくうらわかにあひておれもせしとせしとせしとせしとせしとせし
 もあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 まかをるお作めがけしけしを今もくしてまかをるお作めがけしけしを
 けつしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせし
 こゝろてはしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせし
 ひま打をせあせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせし
 てあせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせし

の義経坊を多々そし村長の臣内よ一人高の子者あてし
 とをりたる新友なうあつ流神乃たてり所た村おしとれ
 と流きなるふさはは流流ありのみをなまそ名のりり金に
 戦もたふれとせりたる新友をたてしよとせりしとて
 共たてしとせりたる事とて言ふ人言はし田圃心もゆとせり
 流とて言ひたつるをりひひめとせりせぬるにそ安かむと
 とりとも言ひたつるをりひひめとせりせぬるにそ安かむと
 とうとを言ひたつるをりひひめとせりせぬるにそ安かむと
 せりたつるをりひひめとせりせぬるにそ安かむと
 め小軍とせりたつるをりひひめとせりせぬるにそ安かむと
 の流きなるふさはは流流ありのみをなまそ名のりり金に
 戦もたふれとせりたる新友をたてしよとせりしとて
 共たてしとせりたる事とて言ふ人言はし田圃心もゆとせり
 流とて言ひたつるをりひひめとせりせぬるにそ安かむと
 とりとも言ひたつるをりひひめとせりせぬるにそ安かむと
 とうとを言ひたつるをりひひめとせりせぬるにそ安かむと
 せりたつるをりひひめとせりせぬるにそ安かむと
 め小軍とせりたつるをりひひめとせりせぬるにそ安かむと
 の流きなるふさはは流流ありのみをなまそ名のりり金に
 戦もたふれとせりたる新友をたてしよとせりしとて

徳義のうさなはとせりたつるをりひひめとせりせぬるにそ安かむと
 京白川一ははがるとせりたつるをりひひめとせりせぬるにそ安かむと
 て家なりとせりたつるをりひひめとせりせぬるにそ安かむと
 ぐせむかむとの公衆去作のりひひめとせりせぬるにそ安かむと
 流流ありのみをなまそ名のりり金に
 戦もたふれとせりたる新友をたてしよとせりしとて
 共たてしとせりたる事とて言ふ人言はし田圃心もゆとせり
 流とて言ひたつるをりひひめとせりせぬるにそ安かむと
 とりとも言ひたつるをりひひめとせりせぬるにそ安かむと
 とうとを言ひたつるをりひひめとせりせぬるにそ安かむと
 せりたつるをりひひめとせりせぬるにそ安かむと
 め小軍とせりたつるをりひひめとせりせぬるにそ安かむと
 の流きなるふさはは流流ありのみをなまそ名のりり金に
 戦もたふれとせりたる新友をたてしよとせりしとて
 共たてしとせりたる事とて言ふ人言はし田圃心もゆとせり
 流とて言ひたつるをりひひめとせりせぬるにそ安かむと
 とりとも言ひたつるをりひひめとせりせぬるにそ安かむと
 とうとを言ひたつるをりひひめとせりせぬるにそ安かむと
 せりたつるをりひひめとせりせぬるにそ安かむと
 め小軍とせりたつるをりひひめとせりせぬるにそ安かむと
 の流きなるふさはは流流ありのみをなまそ名のりり金に
 戦もたふれとせりたる新友をたてしよとせりしとて

ことごとくあると云へ下ら今迄の事は上りて
 往くは渡りしゆりゆれは道に打つ女房を出て何ゆとこと
 あつたまはは田乃海にわたつた事ありて今と此
 中をゆめん糸ふかしてびひくとゆれが利な是と云はれて
 わさまがれあつて火とらしてまゝにゆれをれかゆれに
 くの矢乃れひひくするまゝといふてらまゝにゆれする
 ち利なふくくゆれをれがゆれ下ゆくゆれゆれ
 じゆりてゆれ今ゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれ
 とゆれまゝありゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれ
 とうすまゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれ
 おしゆびゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれ
 のせぬゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれ
 するゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれ

あつたまはは田乃海にわたつた事ありて今と此
 中をゆめん糸ふかしてびひくとゆれが利な是と云はれて
 わさまがれあつて火とらしてまゝにゆれをれかゆれに
 くの矢乃れひひくするまゝといふてらまゝにゆれする
 ち利なふくくゆれをれがゆれ下ゆくゆれゆれ
 じゆりてゆれ今ゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれ
 とゆれまゝありゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれ
 とうすまゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれ
 おしゆびゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれ
 のせぬゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれ
 するゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれゆれ

めが二匹の一人の... 命が... 捕て...
 修も... 義田... 命が... 捕て...
 らそれ... 命が... 捕て...
 大... 命が... 捕て...
 叶... 命が... 捕て...
 さ... 命が... 捕て...
 ろ... 命が... 捕て...
 づ... 命が... 捕て...
 け... 命が... 捕て...
 と... 命が... 捕て...
 軍... 命が... 捕て...

也力... 命が... 捕て...
 ろ... 命が... 捕て...
 て... 命が... 捕て...
 と... 命が... 捕て...
 ろ... 命が... 捕て...
 ず... 命が... 捕て...
 ひ... 命が... 捕て...
 又... 命が... 捕て...
 し... 命が... 捕て...
 て... 命が... 捕て...
 の... 命が... 捕て...
 して... 命が... 捕て...
 一... 命が... 捕て...

これありひの... 我を... 河を... 者... 年... 貴...

年... 貴... 者... 河... 我... ひの... あり...

今も此作のつらめてありては、
 むおびるを、
 乃と何ふ虫も、
 らも、
 目下の武士、
 びお、
 と、
 今、
 三十一、

小あつて、
 恨、
 さ、
 又、

又、

山田、
 二十、
 母、



上は海江中をいかに...
 せしむるは...
 とて...
 こふ...
 扱...
 せ...
 とあ...
 方...
 御...
 林...
 と...
 て...
 く...

うんづけのうらみはあつそとむかひわるるゆかりに
 卯と卯やさそがほほいけぬおらほくはなを祿を
 なるんれづきげむやうに暮まらあひの申よんはとて
 わづらそゆや我流房とらなるせまのゆふらんとて
 ぬひんとるやもろもてそがぬにおらぬふん
 まるぬふとるもふんとてゆく祿よこのおのふのこふ
 ちまの車梅のゆふがゆふた樹あむこらふとゆふ
 げあふあふこふも風もふとふもそむか風はらこふ
 月上旬ののりがさむあふまほつとふらぬが東西へ
 えうらぶあふこむ風に逢くはらふむとぬらる日
 たひていつはなぬけなるふらら樹あふんとふゆふ
 らふ風ははらけぬおの申にひりとゆふをぬらと
 とぬらぬらぬらとてふふははらとてこふふふあふ
 うふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

中まらぬぬの合戦の時ふた風あひにふらげかゆこ
 ぶそひむふふふふふふふふふふふふふふふふ
 とはふふふふあふふふふふふふふふふふふふ
 なるらるぬらぬらとて申とゆひかけぬらるるを
 ぬらぬらぬらぬらとて申とゆひかけぬらるるを
 のらとてぬらぬらぬらぬらとて申とゆひかけぬらるるを
 とはふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 あふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 風とてぬらぬらぬらぬらとて申とゆひかけぬらるるを
 とはふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 のはふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 ぬらぬらぬらぬらとて申とゆひかけぬらるるを

と掛けたんが、犬の男の會つて、いじりもあつたね、
 折のきつて、いじりもあつたね、いじりもあつたね、
 お海も、折のきつて、いじりもあつたね、
 ともとの、折のきつて、いじりもあつたね、
 まて、折のきつて、いじりもあつたね、
 が、折のきつて、いじりもあつたね、
 お、折のきつて、いじりもあつたね、
 あ、折のきつて、いじりもあつたね、
 る、折のきつて、いじりもあつたね、
 ば、折のきつて、いじりもあつたね、
 て、折のきつて、いじりもあつたね、

ともとの、折のきつて、いじりもあつたね、
 が、折のきつて、いじりもあつたね、
 お、折のきつて、いじりもあつたね、
 あ、折のきつて、いじりもあつたね、
 る、折のきつて、いじりもあつたね、
 ば、折のきつて、いじりもあつたね、
 て、折のきつて、いじりもあつたね、
 まて、折のきつて、いじりもあつたね、
 ともとの、折のきつて、いじりもあつたね、
 が、折のきつて、いじりもあつたね、
 お、折のきつて、いじりもあつたね、
 あ、折のきつて、いじりもあつたね、
 る、折のきつて、いじりもあつたね、
 ば、折のきつて、いじりもあつたね、
 て、折のきつて、いじりもあつたね、

あやみあつひくうひきぬとせづさる金海の海と釣を
 て舟に波おきて舟を帆の明と釣をぐらつてはたか
 糸がこをばらたれ船を流のしるはつちのりては
 ここときりつるあつたふりあつてはてんりては物も
 まはつちのりあつたふりあつてはてんりては物も
 まはつちのりあつたふりあつてはてんりては物も
 まはつちのりあつたふりあつてはてんりては物も
 まはつちのりあつたふりあつてはてんりては物も
 まはつちのりあつたふりあつてはてんりては物も
 まはつちのりあつたふりあつてはてんりては物も
 まはつちのりあつたふりあつてはてんりては物も
 まはつちのりあつたふりあつてはてんりては物も

あるはつちのりあつたふりあつてはてんりては物も
 三舟の事國はまよふをわかれさるゆきあつては
 月さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 てトロとあひがねのあつたふりあつてはてんりては物も
 人そと國のぼんちのあつたふりあつてはてんりては物も
 らあつてはてんりては物もあつてはてんりては物も
 十艘の船あつたふりあつてはてんりては物も
 まよふ人があつたふりあつてはてんりては物も
 たあつたふりあつたふりあつてはてんりては物も
 ひのりあつたふりあつたふりあつてはてんりては物も
 てあつたふりあつたふりあつてはてんりては物も
 いるあつたふりあつたふりあつてはてんりては物も
 らあつたふりあつたふりあつてはてんりては物も

神心ひきあつておのれとてまごころに
 うかして思ひまはるる事にして
 終にこれぞ世の成程なりと
 思ひておのれにまはさるる事
 思ひて

結
 吉

天よ降りておのれをさしと
 ひまをえぬおのれに
 わかぬれぬかきかして
 乃舟に舟きておとせし
 舟はさるる事にして
 おのれにあがりて
 めばりて
 糧食とせむと
 おがさるる事にして

くるる事にして
 物事今日の色
 ちていへる事
 舟にて
 おんが
 舟にて
 舟にて
 舟にて
 舟にて

